



交通安全指導

地域社会とともに
開かれた矯正へ

■ 指導の目標

交通違反や事故の原因等について考えさせることを通じて、遵法精神、責任観念、人命尊重の精神等をかん養する。

- 対象者 被害者の生命や身体に重大な影響を与える交通事故を起こした者や重大な交通違反を反復した者
- 指導者 刑事施設の職員（法務教官、法務技官、刑務官）、民間協力者（被害者団体、民間自助団体等の関係者、警察関係者）等
- 指導方法
 - ・ 講義、グループワーク、SST等を適宜組み合わせて実施
 - ・ 事犯内容に応じた集団編成 等
- 実施頻度等 1 単元 50 分 10 単元 標準実施期間： 3～6 か月

カリキュラム

項目	指導内容	方法
オリエンテーション	受講の目的と意義を理解させる。	講義
運転者の責任と義務	刑事上、民事上及び行政上並びに道義上の責任や免許制度、保険制度についての知識を付与するとともに、人命尊重、遵法精神、自己管理能力の大切さについて考えさせる。	講義、グループワーク
一般犯罪と交通犯罪	交通事犯者の特性について理解を深めさせるとともに、再犯を防止するための方策等について考えさせる。	講義、グループワーク
酒と生活	飲酒が身体、行動等に及ぼす影響について理解を深めさせるとともに、飲酒運転の危険性と防止策について考えさせる。	講義、グループワーク、視聴覚教材の視聴
今回の事犯のもたらした代償 （その１）	交通事故のもたらす代償の大きさや、自己の行動が、家族や職場などに与えた影響について洞察させ、今後の行動について考えさせる。	講義（ゲストスピーカー等）、グループワーク、視聴覚教材の視聴
今回の事犯のもたらした代償 （その２）	自分の行動が被害者及びその遺族等に与えた物質的及び精神的被害について考えさせるとともに、被害者及びその遺族等のおかれている厳しい現状について理解させる。	グループワーク、視聴覚教材の視聴
罪の重さの認識	本件について振り返らせるとともに、運転歴、違反歴を踏まえて運転技術、知識、態度、マナーなどについて考えさせる。	グループワーク、課題作文
被害者（その遺族等）への対応	被害者及びその遺族等に対して、謝罪や弁償の責任があることについて自覚させ、それらを実施するための具体的な方法について考えさせる。	グループワーク、視聴覚教材の視聴、SST
出所後の生活	出所後の具体的な生活設計と再犯を起こさないための方策について考えさせる。	SST、グループワーク